

ね そ

白川郷荻町集落の自然環境を守る会 発行 平成18年 12月号

合掌造りを次世代へ残す取り組み！！

10月9日、「旧松井家棟つつみ作業」を行いました。旧松井家は、日本ナショナルトラストが所有する合掌家屋で、ヘリテージセンター（合掌文化館）としての位置づけと共に、区民の寄り合い等の場としても活用されています。管理運営の中心はボランティア団体である白川BOX（代表：蟻原勤氏）が行い、今回は周りの環境整備を含めた棟つつみが行われました。同時にサシ茅による屋根の部分補修も行いました。合掌屋根は時と共に朽ち果てていくのが宿命の屋根。棟の部分や屋根のくさりかけた部分は、こまめに手入れをしなければいけないことを実感しました。それとともに旧松井家が多くの方々の心ある支援によって維持管理がなされていることに深く感じ入りました。



【屋根にサシ茅をほどこす】

10月27日、「茅かき講習会」が開催されました。中心となるのは白川中学校及びPTAが主催する「茅かき体験」で、その支援者として守る会のメンバーや合掌保存組合、長寿会の方々が加わり行いました。また当日は、白川から移築した合掌造りを所有する東山動植物園のボランティア団体40名が参加したり、中国からの教員視察団30名が見学にみえたりするなかで盛大に行われました。

場所は、寺尾地区内より奥に入った吉原谷の茅場で、大茅が壮大に広がる場所です。子どもたちは昨年の秋にも同じ場所で茅かき体験をしており、なかなか手慣れたもの。それぞれが自分の体力と技能に合わせ、茅を刈る者、縛る者、運ぶ者と役割分担し、大人のやり方を見ては「かいしょ」を出して頑張っていました。最終的には約800束の茅を収穫し、後日寺尾の茅倉庫に納めました。これらの茅は、地元産の貴重な茅として合掌造りの屋根葺きに活用されます。白川中学校では、春には「屋根葺き体験」も行っており、これら2つの体験活動を通して、世界遺産白川郷の中核をなす合掌造りを守る活動を教育活動の一環に取り入れています。荻町区民であり中学



【茅かきの手本を示す】

のPTA会長を務める川田一浩氏は「子どもたちは次代を担う村の宝です。だからこそ、これらの活動に親・住民が積極的に支援していくことがとても大事であると感じています。」と語ってくださいました。学校と保護者・地域が一体となった活動の重要性を痛感しました。

11月26日、「旧寺口家の雪囲い作業」を行いました。旧寺口家は旧松井家と同じく日本ナショナルトラストが所有する建物で、白川郷を研究対象に訪れる学生の滞在に活用したり、地場産業復興の土産物づくり等に関わっての活用がなされたりしてきました。管理運営には守る会等が関わり、周辺の草刈りや内部の清掃等も行ってきました。今回は冬に向けての雪囲い作業を行い、景観に配慮した昔ながらのオダレを使った雪囲いを完成させました。白川のどの家でも行う作業ではありますが、雪から家屋を守る先人の知恵と共に汗して働く結の精神を体感しました。



【オダレによる雪囲い】

これら全ての活動にご支援・ご協力くださいました皆様に、心より感謝申し上げます。

12月2日、「三村交流会」及び「白川郷・五箇山を考えるシンポジウム」が開催されました。五箇山相倉合掌集落のふるさとセンターを会場に、シンポジウムには約80名が、三村交流には約50名が参加しました。東京大学大学院西村幸夫教授の講演及び各地区代表者によるパネルディスカッションが行われ、世界遺産を守る意義や三地域の抱える問題を共有する場をもつことができました。その内容につきましては、次号で掲載いたします。(文責：和田正人)

守る会の活動指針（国際フォーラム白川郷宣言より）

- (1) 隣人にやさしい心豊かで安全な共同生活のいっそうの充実
- (2) かけがえのない美しい文化遺産の保全と未来への確かな継承
- (3) 国内外の人々との文化交流を通して友好の輪の拡大

= 11月の活動報告 =

- 11月 1日 国際フォーラム白川郷宣言
公民館看板設置
- 11月 5日 国道156号線清掃活動（1名）
- 11月 6日 耕地の保全復元等に関する打合せ
（守る会・財団・観光協会）
- 11月 10日 役員会・11月定例会（14名）
- 11月 19日 交通対策（2名）
- 11月 26日 ナショナルトラスト旧寺口家雪囲い
作業（7名）

= 区民の皆様へ =

建物や土地などの現状を変更する場合は許可が必要です。必ず現状変更申請をして下さい。申請書は守る会定例会（毎月10日前後）の2週間前までに財団又は各組代表の委員に提出して下さい。このことは、遺産の保全と未来への継承のためとても重要なことです。皆さんの理解とご協力をお願いします。

12月の協議事項・・・今月は現状変更申請はありませんでした。